

xEV と車載用 LIB の現状と将来展望

神鋼リサーチ (株) 播口 美紀

2018年2月28日から3月2日までの3日間にかけて、「スマートエネルギーWeek 2018」が東京ビックサイトで開催された。スマートエネルギーWeek 2018では、新エネルギーに関わる以下の展示会が同時開催された。「第14回国際水素・燃料電池展」「第11回国際太陽電池展」「第9回太陽光発電システム施工展」「第9回国際二次電池展」「第8回国際スマートグリッド EXPO」「第6回国際風力発電展」「第3回国際バイオマス発電展」、「第2回次世代火力発電 EXPO」の8つの展示会を視察した。



図1 スマートエネルギーWeek 2018の会場風景

スマートエネルギーWeek 2018では、各展示会に係わる専門技術セミナーも開催された。二次電池分野では「急拡大をはじめめる xEV および車載用 LIB 市場の実態と将来展望」、風力発電分野では「風力発電をめぐる系統連携の最新動向 ～何が問題で、なぜ問題になるのか?～」、というテーマの専門技術セミナーを聴講した。このうち、「急拡大をはじめめる xEV および車載用 LIB (リチウムイオン電池) 市場の実態と将来展望」と題する専門技術セミナーから2つの講演概要を以下に報告する。

このセミナーでは、まず、「最新 LIB 市場の実態市場の動向と展望 ～モバイルから車載・蓄電まで～」と題して、株式会社 B3 から講演が行われた。

LIB の主要用途別の出荷量推移と今後の予測が紹介された。これまでは民生用途が大きな割合を占めていたが、車載用途の伸びが大きく今後の成長を牽引していく。また、車載用に比べると少ないものの、エネルギー貯蔵用も増加している。この LIB 市場の大きな成

長を牽引しているのは「各国の電動車導入」や「燃費、CO₂排出量に関する規制」である。現在の成長市場は中国のNEV (New Energy Vehicle) 政策がリードしているが、中長期的には厳しいCO₂排出量削減目標を掲げている欧州が市場として成長していくのではとの見方が示された。また、今後の主要サプライヤの出荷予測も紹介され、今後の懸念事項の一つとして原料供給に関するリスクについての説明があった。さらに、LIBの今後の展開について、持論を交えた解説が行われた。

次に、「激変の自動車産業におけるパワートレインミックスの変化、電動化戦略の動向」と題して、(株)ナカニシ自動車産業リサーチにより講演が行われた。(株)ナカニシ自動車産業リサーチの中西氏は、自動車部門における人気アナリストであり、証券会社等における調査部長などを歴任された後、独立されている。

自動車業界は、デジタル化、知能化、電動化などの技術により大転換期を迎えており、それを端的に表しているのが2016年にパリモーターショーでダイムラーにより発表されたCASE (Connected, Autonomous, Sharing, Electric (e-Mobility) の頭文字) 戦略である、このCASE戦略によって今後の自動車販売のシナリオが大きく変化する可能性がはじめに紹介された。また、CASEの進展により自動車業界の業容も変化せざるを得なくなる。この変化に多大な影響を及ぼすと見られる自動運転の技術と事業ポテンシャルについての説明も行われた。

世界の環境規制の現状と内燃機関規制への動きについても紹介がなされた。まず、大きな市場を持つ欧州、米国、中国の環境規制についての説明があり、内燃機関禁止に向けた世界的な動きが紹介された。次に、自動車メーカーのパワートレインミックス戦略の代表としてAudiとToyotaの戦略、各社のEV化比率目標が紹介された。各自動車メーカーのパワートレインミックス戦略は世界の地域毎の販売比率の差が大きな影響を及ぼしていることが示された。最後に、現段階でアナリストとしての中西氏の「2030年におけるパワートレインミックス」に対する予測も紹介された。

スマートエネルギーWeek 2018を視察して、二次電池分野、水素・燃料電池分野の新技术を中心に、最新技術情報を収集した。これらの分野の関連技術は世の中の大きな関心事となっている。今後も新エネルギー関連技術の動向を注視していくと共に、2019年のスマートエネルギーWeekにも参加して情報収集に努めたい。

以上